

**委託事業実施内容報告書**  
**令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**実施内容報告書**

団体名：公益財団法人吹田市国際交流協会

**1. 事業の概要**

事業名称	「つくって×たべて」そしてつながる日本語：「多文化つくたべプロジェクト」
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	吹田市の外国人人口は2019年11月現在5,718人。過去5年で約30%増加しており、それに伴い地域における日本語学習のニーズも高まり、多様化している。この状況に対応すべく、当協会は本事業を活用するなどして学習機会の拡充を図ってきた。現在さまざまな形態の教室を週6日、11クラス実施しており、そこで活発な日本語交流活動を行っている。 しかし、日本語教室は、「日本語を学びたい外国人学習者」と「外国人と交流したいと自発的に活動に参加する日本語学習支援者」という特定の人が集う場であり、日頃の活動の中で広く地域との関わりを持つことは難しい。地域住民との交流を促進し、外国人の日本語教育への関心を高め、相互理解を深めるために、積極的に地域に出向き、具体的なトピックを通じて啓発・広報活動にも注力していく必要があると認識している。
事業の目的	「食」という身近なテーマで外国人と地域住民の交流を促進し、その交流を通して日本人住民が地域で暮らす外国人の状況や課題に関心をもち、日本語教育の重要性への理解を深めること。 外国人の日本語習得を支援し、自信をつけてもらって、教室の中から地域へと交流や活躍の場を広げること。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	◇ステップ1：日本語で伝えあう「多文化つくたべ準備教室」 特定の人が集う「教室」という環境で、外国人と日本語支援者が共通の目標に向かって準備を進めるやりとりの過程で、日本語でのコミュニケーション能力を高め、日本の文化や慣習への理解を深めた。互いの文化や考えを尊重し、理解し合える居場所での活動を通して自信をつけることができた。 ◇ステップ2：多文化つくたべ交流会 ～みんなで作って食べて楽しんで、そして解り合おう～ 教室から地域へ。「食」という身近なテーマで外国人と地域住民との交流を図り、地域で暮らす外国人の文化や状況に関心をもち、日本語教育の重要性への理解を深めた。交流会を通して達成感や更なる自信につなげることができた。 ◇ステップ3：シンポジウム「日本語交流活動宣言×多文化つくたべプロジェクト～令和時代のおせち料理を考える～」 「日本語交流活動宣言」を地域に発信し、地域日本語教育への理解を広める。「多文化つくたべプロジェクト」の成果報告とともに、新たな多様性の時代のおせち料理を提案する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。
事業の実施期間	令和2年5月～令和3年3月（11か月間）

**2. 事業の実施体制**

**(1) 運営委員会**

【運営委員】

1	西口 光一	大阪大学国際教育交流センター 教授
2	鍵谷 誠一	NPO法人市民ネットすいた 副理事長
3	水木 千代美	佐竹台スマイルプロジェクト 代表 佐竹台地区青少年対策委員会 青少年指導員地区長
4	西川 利子	世界の料理ピロギ・ジャパン コーディネーター
5	申 ヒョンジ	外国人市民・元日本語学習者
6	榎原 智子	(公財)吹田市国際交流協会 日本語講師
7	林 詩	(公財)吹田市国際交流協会 職員



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年6月29日 (月) 13:30～15:30	2時間	吹田市国際交流協会	西口光一、鍵谷誠一、水木千代美、西川利子、申ヒョンジ、榎原智子、林詩、村田寛子	1. 吹田市概況 2. 日本語交流活動宣言について 3. 事業概要 4. 各事業の企画・実施方法・広報等について検討
2	令和2年12月18日 (金) 16:00～17:00	1時間	オンライン	西口光一、水木千代美、西川利子、申ヒョンジ、榎原智子、林詩	1. 中間報告 2. シンポジウムについて具体的に検討 3. 今後に向けた課題検討
3	令和3年3月11日 (木) 13:00～14:30	1.5時間	吹田市国際交流協会	西口光一、鍵谷誠一、西川利子、申ヒョンジ、榎原智子、林詩、清水早智	1. 事業報告 2. 参加者からのアンケート結果報告 3. 事業評価・総評 4. 次年度文化庁事業申請について/次年度つくたべ事業の実施について

**(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力**

連携体制	吹田市：市内各所における広報への協力 吹田市日本語教室ネットワーク連絡会(8団体)：地域の課題・情報共有、学習者・支援者の均衡を図る、教室間の交流 大阪府内の国際交流協会：情報共有、広報への協力 地域の交流拠点施設：地域の特性を生かした助言・提案、会場提供、施設利用者・地域住民への広報協力 市民公益活動センター/NPO法人市民ネットすいた：地域連携への助言 世界の料理ピロギ・ジャパン：外国人人材の紹介、料理イベント運営への助言
------	--

**(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制**

本事業の実施体制	◇多文化つくたべ準備教室は、教室コーディネーターが中心となり、日本語支援者が外国人参加者(学習者)を適宜サポートをしながら実施した。 ◇多文化つくたべ交流会は、教室コーディネーターが中心となり、日本人・外国人教室参加者によって企画・運営した。 ◇シンポジウムは、運営委員、教室コーディネーターが中心となって企画した。教室コーディネーターと教室参加者が運営する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。 ◇運営委員はすべての事業の検討・助言を行った。 ◇すべての取組のコーディネートは林が行った。
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞【実施期間:令和2年7月22日～令和3年3月3日】											
取組の名称	日本語で伝えあう「多文化つくたべ準備教室」										
取組の目標	楽しく元気になる居場所をつくり、その安心できる環境の中で、交流会実施という共通の目標に向かって準備を進めるやりとりの過程で、日本語でのコミュニケーション能力を高め、日本の文化や慣習への理解を深めること。また、教室に集う外国人・日本人参加者が互いの文化や考えを尊重し、理解を深め合うこと。										
取組の内容	<p>まずは教室というクローズドな場で信頼関係を築き、教室の外に出ていくための自信をつけられるよう支援した。「多文化つくたべ交流会」の企画・運営・ふりかえりを教室活動として実施した。成果として「多文化つくたべレシピ集」を作成して頒布した。また、交流会を実施する会場となる地域交流拠点施設の方からの話を聞く機会を設ける等、教室運営のコーディネーターや支援者への研修の機会も提供した。</p> <p>コーディネーターが中心となり、日本語支援者が適宜サポートしながら、外国人参加者といっしょに準備を進めた。外国人も従来の日本語教室のように受け身ではなく交流会企画メンバーの一員として主体的に関われるよう促した。その過程で日本語を習得し、教室参加者が互いの文化や考えの違いに気づき、尊重・理解し合えるよう運営委員やコーディネーターから適宜助言を行い事業を進めた。</p>										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	<p>良き隣人として寄り添い支援してくれる関係が築けた。</p> <p>外国人の日本語教育への理解や関心を持つ地域住民の裾野が広がった。</p>										
取組による日本語能力の向上	<p>寄り添って支援をしてくれる教室の仲間と安心できる環境の中で、準備を進めるやりとりを通して日本語を習得することができた。</p> <p>外国人が自身の食文化について伝えることができるようになった。</p> <p>共通の目標を持つことで積極的になり、日本語で伝えたい、理解したいという意欲を十分に引き出すことができた。</p>										
参加対象者	吹田市及び近隣在住の外国人と日本語支援者	参加者数 (内 外国人数)	254人(146人)								
広報及び募集方法	協会ホームページ、会報、Facebook、外国人向け多言語メーリングリスト、市内日本語教室や近隣国際交流協会へのチラシ送付										
開催時間数	<p>総時間 57.5 時間(空白地域 時間)(予定64時間)</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため12月9日・12月20日・2月28日は中止となった。また、レシピ集作成・シンポジウム準備のため10時間程度実施予定であったが、日程も決められないうちに中止せざるを得ない状況となったため60時間実施できなかった。</p>	内訳 2時間×25回、3.5時間×1回、4時間×1回									
主な連携・協働先	地域交流拠点施設(さたけん家、ケープコッド、さくらカフェ、西山田ふらっとサロン)、吹田市日本語教室ネットワーク連絡会、近隣市の国際交流協会 等										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	6			3		1				5	15
※該当する場合のみ コロンビア(1人)、台湾(4人)、ロシア(1人)、メキシコ(2人)											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和2年7月22日(水) 10:00～12:00	2	市民公益活動センター	7	自分の国の料理について話します	事業趣旨説明、自己紹介、「粉もん」とは？、自国の「粉もん」料理について発表、交流会で作る3つの料理を決定	(西川・林) ※()は進行役 コーディネーター名				
2	令和2年8月5日(水) 10:00～12:00	2	吹田市国際交流協会	6	料理のこたばを勉強します	世界の料理ピロギージャパンの講師を招き、「調理方法・調理器具・お好み焼きの作り方」を題材に日本語を学んだ。	世界の料理ピロギージャパン (西川・林)				
3	令和2年8月12日(水) 10:00～12:00	2	市民公益活動センター	6	レシピを考えます	交流会で作る3つの料理のレシピを考えました。料理サイトの動画を見ながら日本語での表現を確認し、材料や作り方の素案を考えました。	(西川・林)				
4	令和2年8月19日(水) 10:00～12:00	2	さたけん家	6	料理の練習をします	交流会会場を使って試作。前回考えたレシピで試作をしながら、分量や調理器具の場所や人の配置など確認。レシピ用の写真撮影。	(西川・林)				
5	令和2年8月26日(水) 10:00～12:00	2	市民公益活動センター	6	レシピを書きます	試作を元に分量と作り方を再検討。当日配布用に手書きレシピを作成。交流会でどんな話をするか考えた。	(西川・林)				
6	令和2年8月30日(日) 9:00～13:00	4	さたけん家	6	つくたべ交流会	会場準備、施設の方の話を聞く、地域の方を迎えて交流会、地域参加者へのアンケート、片付け	(西川・林)				
7	令和2年9月9日(水) 10:00～12:00	2	市民公益活動センター	3	交流会のふりかえり	地域参加者のアンケート結果報告。交流会の準備を通して学んだことや交流会の感想など「ふりかえりシート」への記入。交流会の写真をしながらふりかえり。	(西川・林)				
8	令和2年9月16日(水) 13:30～15:30	2	千里市民センター	5	自分の国の料理について話します	チアシードプロジェクトについて説明、チアシード試食、自国のどの料理にチアシードが合うか考えて発表、交流会で作る3つの料理を決定	井川 賀子 (西川・林)				

9	令和2年9月23日(水) 13:30~15:30	2	千里市民センター	5	料理のことばを勉強します/レシピを考えます	世界の料理ピロギージャパンの講師を招き、「秋の味覚・調理方法」を題材に日本語を学んだ。交流会で作る3つの料理のレシピを考えました。料理サイトの動画を見ながら日本語での表現を確認し、材料や作り方の素案を考えました。	世界の料理ピロギージャパン (西川・林)	
10	令和2年9月30日(水) 13:30~15:30	2	ケーブコッド	9	料理の練習をします	交流会会場を使って試作。前回考えたレシピで試作をしながら、分量や調理器具の場所や人の配置など確認。レシピ用の写真撮影。	(西川・林)	
11	令和2年10月7日(水) 13:30~15:30	2	吹田市国際交流協会	5	レシピを書きます	試作を元に分量と作り方を再検討。当日配布用に手書きレシピを作成。交流会でどんな話をするか考えた。	(西川・林)	
12	令和2年10月14日(水) 13:30~15:30	2	市民公益活動センター	4	レシピを書きます/コロナ感染対策を考えます	手書きレシピの続き。料理の手順を確認しながら、でき得る感染対策をみんなで考えた。	(西川・林)	
13	令和2年10月21日(水) 12:45~16:15	3.5	ケーブコッド	9	つくたべ交流会	会場準備、地域の方を迎えて交流会、地域参加者へのアンケート、片付け	(西川・林)	
14	令和2年10月28日(水) 13:30~15:30	2	千里市民センター	4	交流会のふりかえり	地域参加者のアンケート結果報告。交流会の準備を通して学んだことや交流会の感想など「ふりかえりシート」への記入。交流会の写真を見ながらふりかえり。	(西川・林)	
15	令和2年11月11日(水) 13:30~15:30	2	市民公益活動センター	5	料理のことばを勉強します	世界の料理ピロギージャパンの講師を招き、「おせち料理・各国のお祝い料理」を題材に日本語を学んだ。交流会で作る3つの料理のレシピを考えました。	世界の料理ピロギージャパン (西川・林)	
16	令和2年11月25日(水) 13:30~15:30	2	市民公益活動センター	5	レシピを考えます	交流会で作る3つの料理のレシピを考えました。料理サイトの動画を見ながら日本語での表現を確認し、材料や作り方の素案を考えました。	(西川・林)	
17	令和2年12月2日(水) 13:30~15:30	2	青少年活動センター	6	料理の練習をします	調理室を借りて試作。前回考えたレシピで試作をしながら、分量や調理器具の場所や人の配置など確認。レシピ用の写真撮影。	(西川・林)	
18	令和2年12月9日(水) 13:30~15:30	-	市民公益活動センター	-	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
19	令和2年12月16日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	1	年越しやクリスマスの過ごし方	各国での年越し・クリスマスの過ごし方や料理について、写真や動画を見ながら紹介し合った。	(西川・林)	
20	令和2年12月20日(日) 9:00~13:00	-	さくらカフェ	-	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
21	令和2年12月23日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	5	今後の活動について相談	今後しばらくオンラインが続くかもしれないことを伝え、オンラインでの活動内容について意見を出し合った。	(西川・林)	
22	令和3年1月13日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	6	レシピのデータをつくります	試作時の写真を見ながら分量や手順を確認して、手書きレシピの元となるデータを作成した。	(西川・林)	
23	令和3年1月20日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	6	おうちごはん	「ある日の食卓」の写真を撮って紹介し合った。みんなの家の食文化を互いに知ることができた。	(西川・林)	
24	令和3年1月27日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	5	料理のことばを勉強します	世界の料理ピロギージャパンの講師を招き、「料理で使うオノマトペ」を題材に日本語を学んだ。動画も見ながら微妙な表現の違いを学んだ。	世界の料理ピロギージャパン (西川・林)	
25	令和3年2月3日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	6	節分とバレンタイン	節分の豆まきや巻き寿司文化について、各国のバレンタイン事情・各家庭のバレンタイン事情を紹介し合った。	(西川・林)	
26	令和3年2月10日(水) 13:30~15:30	2	オンライン	3	調理器具や調味料と春節	各家庭で使う調理器具や調味料を実際に画面越しに見せて紹介し合った。春節が近いので、各国の大切な年中行事や過ごし方や料理について紹介し合った。	(西川・林)	
27	令和3年2月17日(水) 13:30~15:30	2	吹田市国際交流協会	5	レシピを書きます	レシピデータを元に手書きレシピを作成。	(西川・林)	
28	令和3年2月24日(水) 13:30~15:30	2	吹田市国際交流協会	6	レシピを書きます	レシピデータを元に手書きレシピを作成。	(西川・林)	
29	令和3年2月28日(日) 9:30~13:00	-	西山田ふらっとサロン	-	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
30	令和3年3月3日(水) 13:30~15:30	2	千里市民センター	6	つくたべ事業のふりかえり	ふりかえりシート・アンケートへの記入。このプログラムで印象に残っていることや、今後の要望について意見を出し合った。	(西川)	
計		57.5		146				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回 令和2年8月5日】

世界の料理プロギジパンの講師を招き、「調理方法・調理器具・お好み焼きの作り方」を題材に日本語を学んだ。料理で使う基本の調理器具、日本独自の調理器具について学んだあと、学習者から自国の調理器具について発表してもらった。調理方法では、「煮る」と「茹でる」の違い、「焼く」と「炒める」の違いなど学習者から質問があり、具体例を出しながらみんなで考えた。学習者からは和食の作り方をもっと勉強したいとの声が多数あり。インターネット環境がある会場だったので、その場で検索してみんなと共有することができて活動の幅が広がった。



○取組事例②

【第23回 令和3年1月20日/第26回 令和3年2月10日】

新型コロナウイルス感染拡大のため対面活動が中止となりオンラインで活動をした。オンラインで何が出来るかと試行錯誤であったが、普段の生活や家庭の中を垣間見ることができて、結果的には対面ではできなかったオンラインならではの活動によって、積極的に日本語を使い、より関係を深めることができた。

○「ある日の食卓」の写真を撮って紹介し合った。みんなの家の食文化を互いに知ることができた。写真を取るだけでなく、作り方の資料も作成して披露してくれた学習者もいた。

○各家庭で使う調理器具や調味料を実際に画面越しに見せて紹介し合った。日本人支援者が自宅の味噌樽を紹介すると、学習者はどこで買えるのか、いつから仕込むのかと興味津々であった。春節が近いので、各国の大切な年中行事の過ごし方やその時食べる料理について紹介し合った。



(2) 目標の達成状況・成果

新型コロナウイルスの感染拡大により、「作って食べる」ことを通した日本語習得や交流を目的とした本事業の実施は苦難の連続であったが、大きな会場に変更したり、人数を制限したり、オンラインに切り替えたりと工夫をして事業を継続することができた。

活動参加者数(学習者・支援者)を制限する必要があったため、人数は当初予定数より少なくなったが、関わった人の満足度は高く、「楽しく元気になれる居場所をつくり、その安心できる環境の中で、交流会実施という共通の目標に向かって準備を進めるやりとりの過程で、日本語でのコミュニケーション能力を高め、日本の文化や慣習への理解を深めること。また、教室に集う外国人・日本人参加者が互いの文化や考えを尊重し、理解を深め合うこと。」という目的は大いに達成できた。初めは日本語に自信がないからと参加をためらっていた人や物静かに座っていた人も回を重ねるごとに積極的になり、自国の食材をみんなに食べてもらいたいと持参したり、特技を生かして撮影係をかって出してくれたりと変化が現れた。参加者同士が日本語で交流すること、そして自分のこと(自国の文化)を伝え、相手のことを知る喜びや楽しさに満ち溢れた活動であった。「日本語の勉強」という形ではない活動であったが、日本語も少し上達し、日本で生活しやすくなったという自己評価(アンケート)であった。

(3) 今後の改善点について

定期的集まることで安心して日本語で交流できる関係性を育むことができる。この取り組みを続けるためには安定した場所と支援者の確保が課題である。オンライン活動はコロナのためにやむなく始めたが、自宅から活動に参加することによって、よりリアルな生活を互いに知ることができた。オンラインを活用すれば、より多くの人に日本で暮らす外国人の暮らしや日本語習得の難しさ・重要性を伝えることができるのではないかと思います。

＜取組2＞【実施期間:令和2年8月30日～令和2年10月21日】											
取組の名称	多文化つくたべ交流会 ～みんなで作って食べて楽しんで、そして知り合おう～										
取組の目標	地域住民との交流を図り、地域で暮らす外国人の文化や状況に関心を持ち、日本語教育への理解を深めること。 外国人が地域住民に日本語で自分たちの文化を伝える喜びを経験し、仲間と達成感を共有し、自信につなげること。 地域交流事業に「外国人との共生」という視点を組み入れること。 協会内だけでなく、地域の中に多文化交流の場をつくること。										
取組の内容	外国人と関わる機会の少ない地域住民の中には、英語ができないと外国人とのコミュニケーションが困難、自分たち(日本人)とは違う世界の人の固定観念を持つ人が少なくない。まずは、“食”という身近なテーマで外国人と触れ合う機会を持ち、外国人との距離感を縮め、その先には、日本語教育の重要性や彼らが抱える課題についても関心を持てることを目標とした。 一方、日本語教室に来ている外国人学習者からは、「教室以外で日本語を話す場がない、自信がない」という声を耳にする。この交流会での経験を通して日本語でつながる楽しさを体験し、自信をつけて、教室の外の世界にも一歩踏み出せることを目標として事業を行った。  さまざまな人が利用する地域の交流拠点施設等で、“食”を通じた地域交流の場を設けた。4回実施予定であったが新型コロナウイルス感染拡大のため2回中止となった。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	交流会開催に向けて地域交流拠点の運営者と協議する過程、そして交流会実施によって、組織としての連携を図った。「外国人との共生」という視点を組み入れて地域交流事業を進めていってもらえるよう働きかけた。 外国人の日本語教育への理解や関心を持つ地域住民の裾野が少し広がった。										
取組による日本語能力の向上	外国人にとってはさまざまな地域住民との交流を通して日本語を習得することができた。 共通の目標を持つことで、日本語で伝えたい、理解したいという意欲を引き出すことができた。 伝える・伝わる体験を通して喜びや自信が生まれ、更なる日本語力向上につながった。 地域住民にとっても、どうすれば同じ地域で暮らす外国人とのコミュニケーションがうまくいくかを体感することができた。										
参加対象者	吹田市及び近隣在住者	参加者数 (内 外国人数)	38 人( 17 人)								
広報及び募集方法	協会ホームページ、会報、Facebook、外国人向け多言語メーリングリスト、市内日本語教室や近隣国際交流協会へのチラシ送付										
開催時間数	総時間 4 時間(空白地域 時間) (予定3時間×4回=12時間) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため12月20日・2月28日は中止となった。	内訳 2 時間 × 2 回									
主な連携・協働先	地域交流拠点施設(さたけん家、ケープコッド、さくらカフェ、西山田ふらっとサロン)、関大前商店会 等										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	6			3		1				21	31
※該当する場合のみ	コロンビア(1人)、台湾(4人)、ロシア(1人)、メキシコ(2人)										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和2年8月30日(日) 10:00～12:00	2	さたけん家	15	世界の粉もん	外国人メンバーの国の「粉もん料理」を作って食べて交流した。コロナ対策のため地域参加者を5人に制限した。地域のキーパーソンが参加してくださり、交流会終了後は事業継続に向けて提案をいただき、今後につながる「地域のつながり」が少し築けた。					
2	令和2年10月21日(水) 14:00～16:00	2	ケープコッド	23	フードロス応援企画 チアシードを使った料理の提案	関大前商店会が取り組むフードロス企画「チアシードプロジェクト」に賛同して、チアシードを使った新たな料理を提案した。ところがコロナのため商店会として積極的に集客に協力することはできないとのこと、想定していた「地域のつながり」を築くことは困難であった。					
3	令和2年12月20日(日) 10:00～12:00	-	さくらカフェ	-	令和のおせち 各国のお祝い料理	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 会場の下見や料理の試作を行い、コロナ対策も万全で準備は整っていたが、大阪府医療非常事態宣言の発出に伴い中止となった。					
4	令和3年2月28日(日) 10:00～12:00	-	西山田ふらっとサロン →ケープコッドに変更	-	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 会場の下見を行い、料理は第3回の交流会で実施できなかった「令和のおせち」を作ろうと準備を進めていた。会場や開催方法も変更して実施を試みたが、緊急事態宣言の発出に伴い中止となった。					
計		4		38							

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和2年8月30日】

外国人メンバーの国の「粉もん料理」を作って食べて交流した。準備教室で作成したレシピをもとに学習者が地域参加者に説明しながら調理した。直前の準備教室では何を話すか相談をしていたが、始めてみると調理や食事のときに自然にたくさん話をする事ができた。コロナ対策のため地域参加者を5人に制限したことで、多くの地域住民との交流は叶わなかったが、地域のキーパーソンが参加してくださり、交流会終了後は事業継続に向けて提案をいただき、今後につながる「地域のつながり」が少し築けた。



○取組事例②

【第2回 令和2年10月21日】

関大前商店会が取り組むフードロス企画「チアシードプロジェクト」に賛同して、チアシードを使った新たな料理を提案した。会場となった飲食店は外国人も調理師やホールスタッフとして働いており、そのスタッフも参加した。地域参加者の多くは日頃から外国人と関わる機会のある人だったので、外国人学習者もリラックスして料理の説明や指示をしていた。感染対策については、事前の準備教室で調理工程を一つ一つ確認しながら、でき得る対策をみんなで考え、交流会では地域参加者に注意事項を伝えて実施した。商店会の飲食店を中心に連携・交流を図ろうと試みたが、コロナのため商店会として積極的に集客に協力することはできないとのことで、地域住民のは多数参加したが、想定していた「地域のつながり」を築くことは困難であった。



(2) 目標の達成状況・成果

第1回、第2回のアンケート結果:学習者(回答11名)は、全員「とても楽しかった」「地域の人とたくさん交流できた」を選択した。新しい日本語をたくさん覚え、日本語でいろいろな国の人と交流できたことがとても楽しく、今後もまた参加したいとの意見が多数あった。地域参加者(回答16名)は、全員が「交流会はとても良かった」「地域の中でこのような外国人との交流の機会が増えたらいいと思う」と回答した。コロナで人数制限があり、計画時より規模縮小となりはしたが、「地域住民が地域で暮らす外国人の文化や状況に関心を持ち」の目的への第一歩は果たせた。今後もこのような取組をさまざまな地域で実施して、交流の機会を増やしていくことが重要と考える。「日本語教育の重要性への理解を深めること」の目的にはまだ遠いという認識である。「外国人が地域住民に日本語で自分たちの文化を伝える喜びを経験し、仲間と達成感を共有し、自信につなげること」は達成できた。準備教室や交流会の会を重ねるごとに積極的に他者と関わり、支え合い、地域の人たちに安心して楽しんでもらえる企画にしたいと活発に発言できるように変化していった。この点は大いに評価できる。

(3) 今後の改善点について

コロナ感染拡大状況に左右され続け、直前まで地域参加者募集ができない状況が続いた。今回、オンラインでの交流会開催はしなかったが検討の余地はあった。地域交流拠点施設とつながるきっかけ作りはできたが、継続的な取組とすることが課題である。3年計画で施設の地域交流事業に組み入れてもらうことを目指していたが、本事業は単年度で終了することとなったので、今後予算の無い中でいかに基盤を作っていくかが課題である。各施設の反応は良かったので今回の4施設とは継続できるよう交渉し、新たな交流会開催施設を開拓していく所存である。

＜取組3＞【実施期間:令和 年 月 日～令和 年 月 日】⇒新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止												
取組の名称		シンポジウム「日本語交流活動宣言×多文化つくたべプロジェクト～令和時代のおせち料理を考える～」										
取組の目標		「日本語交流活動宣言」を地域に発信し、地域日本語教育への理解を広げること。 「多文化つくたべプロジェクト」の成果を発表し、外国人を含めた地域住民に広く認知してもらうこと。 食の多様性を尊重した日本伝統のおせち料理を考案すること。										
取組の内容		当協会が2019年度文化庁委託事業の一環として策定している「日本語交流活動宣言」では、活動の趣旨を明文化し、外国人に対する日本語教育や暮らしの課題への理解が深まるよう、地域へ発信していくことを目指した。 日本語教育に関わることのない地域住民への啓発を図るには、楽しく外国人と交流できるイベントと同時に開催することが有効であると考え、「多文化つくたべプロジェクト」と組み合わせたシンポジウムを計画した。 第1部:新しい時代にふさわしい、食の多様性を取り入れた「令和時代のおせち料理」を多様な文化をもつ教室参加者とともに考え提案する。 第2部:「日本語交流活動宣言」を軸に、異なる立場のパネラーを迎えてパネルディスカッション。 「外国人」とは自分の暮らしとは無縁の人ではなく、交流イベントで今と成りにいる彼らであり、自分たちと同じように地域で子育てや仕事をして暮らしている住民の一員であるということを実感してもらうことで、外国人が抱える日本語やそれにまつわる暮らしの課題を現実味のあるものとして捉え、だれもが安心して安全に暮らせるような環境について考え実践する契機となるよう企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備												
取組による日本語能力の向上												
参加対象者		吹田市及び近隣在住者				参加者数 (内 外国人数)		0 人( 人)				
広報及び募集方法		協会ホームページ、会報、Facebook、外国人向け多言語メールリスト、吹田市報、市内日本語教室や近隣国際交流協会へのチラシ送付										
開催時間数		総時間 0 時間(空白地域 時間) (予定3時間×1回)(代替企画あり)				内訳		時間 ×		回		
主な連携・協働先		地域交流拠点施設等										
受講者の出身 (ルーツ)・国内別 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
※該当する場合のみ												0
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	令和3年2月28日(日) 10:00～12:00	-	ケーブコッド	-	【予定】 第1部:つくたべ交流会～令和のおせち～ ○多文化つくたべプロジェクト事業紹介・活動報告 ○各国のお祝い料理の紹介・持ち帰り・交流 第2部:シンポジウム ○基調講演:日本語交流活動宣言、日本語教育の重要性(西口光一氏) ○パネルディスカッション:ある日の日本語教室を活動を取り上げて、外国人が地域とつながることについて考える  【中止に至った経緯】 12月4日大阪府医療非常事態宣言、続いて1月14日緊急事態宣言の発出に伴い、吹田市市内の多くの公共施設は閉館となり予約していた会場は使用できず、すべての対面活動を中止せざるを得ない状況となった。日程を1月29日→2月5日→2月28日と変更し、会場も公共施設→ケーブコッド(飲食店)→西山田ふらっとサロン→ケーブコッドと市からの規制を受けずに使用できる会場に何度も変更して実施できる方法を模索した。また、「作って食べる」から「作って持ち帰る」へと変更し、実施時間を短縮し、会場は人数制限があることから対面方式とオンライン方式で参加できるよう、社会的状況を見ながら開催できるよう対応し続けた。しかし、会場での「つくたべ交流」あつての「シンポジウム」だということが計画当初からの考えであり、オンラインでシンポジウムだけを配信しても事業効果は半減以下であるため、対面できない場合は事業中止とした。そして、緊急事態宣言解除が2月末となったため中止の判断に至った。  【代替企画】 地域住民に広く日本語教育の重要性、日本語教室の役割や意義を伝えるため、2020年4月に策定した「日本語交流活動宣言」を多言語翻訳(日本語・英語・中国語・韓国朝鮮語・ベトナム語)したリーフレットを関係各所に配布することとした。また、「日本語交流活動宣言」の理念のもと実施している日本語教室の名刺サイズカードを作成して、市内各所への配架協力依頼および日本語支援者からの草の根広報活動を行った。							
計		0		0								

## (1)特徴的な活動風景(2～3回分)

## ○取組事例①

実施していない。

(2) 目標の達成状況・成果

シンポジウムは中止となったためアプローチは変わったが、目標は一定程度達成できた。  
 「日本語交流活動宣言」を地域に発信し、地域日本語教育への理解を広げること。」は多言語化したリーフレットを当協会や近隣の日本語教室に関わる人へ配布して理解を深めた。また、「日本語交流活動宣言」の理念のもと実施している日本語教室の名刺サイズカードを作成して、市内各所への配架協力依頼および日本語支援者からの草の根広報活動を行った。  
 「多文化つたべプロジェクト」の成果を発表し、外国人を含めた地域住民に広く認知してもらうこと。」はレシピブックを当協会賛助会員や近隣市国際交流協会、飲食店などに配布して成果発表の機会とした。ホームページやFacebookを通じて遠方の方からも送付の要望をいただき、大変好評であった。  
 「食の多様性を尊重した日本伝統のおせち料理を考案すること。」は、各国のお祝い料理を参加者間で共有して、世界の多様な食文化を知ることができた。その中から抜粋してレシピブックにも掲載した。

(3) 今後の改善点について

中止となったが、もし機会があれば楽しい交流と在住外国人の実情や日本語教育の必要性を組み合わせた事業を実施したいと考えている。外国人のくらしや日本語の課題に関心を持ってもらうためには、まずは地域住民と外国人住民が出会って関わってみることに始まると考える。出会える場を身近に近くっていくことが課題である。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

「食」という身近なテーマで外国人と地域住民の交流を促進し、その交流を通して日本人住民が地域で暮らす外国人の状況や課題に関心を持ち、日本語教育の重要性への理解を深めること。  
 外国人の日本語習得を支援し、自信をつけてもらって、教室の中から地域へと交流や活躍の場を広げること。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

事業全体にコロナが大きく影響し、作って食べる事業の実施は困難なことも多く、地域との連携や地域住民との交流は目標には及ばなかったことは結果として事実である。しかし、予期せぬ状況に都度対応し、実施方法・日時・会場・人数などコーディネーターを中心に試行錯誤しながら進め、さまざまな事業が中止を余儀なくされる状況の中、本事業は中断せずできる方法で継続したことは評価できる。シンポジウムが中止となったことは心残りであるが、比較的規模の大きな事業であったため準備や集客に時間を要するため、緊急事態宣言下で予定が立てられず中止となったことは致し方なかった。  
 外国人学習者は積極的に日本語で交流しようと変化し、本事業を通して自身の日本語力の向上を自覚することができた。交流会への地域参加者にとっても外国人を知るきっかけとなり今後もこのような機会を増やしてほしいとの要望があったことは成果である。運営委員からは、従来型の教室で学ぶスタイルにとらわれず、「食」という世界共通のテーマで活動したことに意義があり、数字に表れない効果は評価に値する、との評価をいただいた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

今回、交流会4回実施の予定のうち2回しか実施できなかったが、実施に向けた地域交流拠点施設との事前打合せを通して地域の繋がり作りの一歩になった。いずれの施設も交流事業・多文化共生事業を連携して進めることに大変前向きで協力的な姿勢であった。施設運営者や地域参加者からは、自治会等と連携すれば予算が出る可能性があること、吹田市の外国人の状況など学びの要素を入れたほうが、その後の「交流」が活きてくるのではないかと、助言や要望を聞くことができた。交流事業を足掛かりとして、地域住民が外国人住民の現状や課題、そして日本語教育の重要性に関心を持てるよう今後も取組を継続していきたい。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

コロナ感染対策として人数制限をしていたため、学習者・支援者・地域参加者すべてにおいて広く積極的に広報ができなかった。交流会の地域参加者に関しては日頃外国人と接する機会のない方に参加してもらいたかったので当協会登録者へは周知をせず、交流会会場やその周辺地域での周知を図ったが、想定以上に集客が難しかった。事業内容に関心が持てないのか、周知方法に問題があるのか、またはコロナで飲食を伴うイベントを避ける傾向があったのかは不明である。今後は、本事業で作成した「日本語交流活動宣言」の多言語リーフレットやつたべレシピブック、日本語教室名刺サイズカード等を活用して周知に努め、外国人の教室参加や地域住民へ地域日本語教育の存在や重要性への理解を深めるために発信していく。

(5) 改善点、今後の課題について

当協会は地域で活動する団体であり、地域の中にいるわたしたちにこそできる日本語交流活動があると改めて感じた。日本語教育(日本語を教えること・学ぶこと)だけにフォーカスすると対象が日本語がまだ不十分な外国人に限定され、地域で暮らす日本人住民や日常生活に支障のない外国人が対象から外れてしまう。  
 自己表現のための日本語を学びながら、そして他者とつながりながら暮らしていくことで言語を習得し、結果として日本語力の向上につながると思う。従来型の教室の形式にとらわれず地域住民とともにさまざまな活動に取り組み、日本語を使って自分らしく豊かに楽しく暮らしていけるような事業を展開していきたい。  
 地域住民との接点となる交流会やシンポジウムが予定通りできなかったことで、目標であった「教室から地域へ」は十分に達成できなかった。しかし、地域と積極的に交わる機会をつくり、地域に根ざし開かれた教室づくりを目指すことが、地域の多文化共生推進に向けて当協会のできることであり、思いを新たにしたい。

(6) その他参考資料

多文化つたべチラシ4回分/日本語交流活動宣言リーフレット/つたべレシピブック/日本語教室名刺サイズカード